



室内飼いなのになぜ猫ノミがつく？ 知っておきたい効果的な対策とは

猫ノミは体長1～2 mm 程度と非常に小さく、人間がすぐに目視で気づくのが難しいサイズの吸血性の寄生虫です。そのため、室内飼いの猫であっても、知らないうちに猫ノミが家の中に侵入して、感染してしまうケースがあります。ここでは、室内飼いの猫に猫ノミがつく原因や、知っておきたい効果的な駆除・対策の方法についてまとめていきます。



室内飼いなのに猫ノミが寄生する原因とは？



①家に入出入りする人間の衣服や靴などにくっついてくる

猫ノミは、猫の体表以外にも、人間の衣服や靴などにくっついて室内に侵入してくる場合があります。猫ノミのジャンプ力は驚異的であり、光の刺激や、動物が発する二酸化炭素や、体温に反応して、体長の約60倍の距離を移動し、約100倍の高さまで飛び跳ねることができます。そのため、人間の膝下程度であれば簡単にくっ付くことができます。

②一緒に犬を飼っている場合、犬がノミを持ち込むことがある

猫を室内飼いでいても、一緒に飼っている犬を外に散歩へ連れていっている場合には、犬がノミを持ち込んでしまうことがあります。散歩する道路や道にも、ノミの成虫・幼虫・卵などが落ちていることは多々あり、特に、犬はノミが寄生しやすい茂みや草むらなどにも好んで足を踏み入れるので、犬へのノミ・マダニ駆除薬の投与に加え、散歩終わりの犬のケアには十分に注意すべきです。

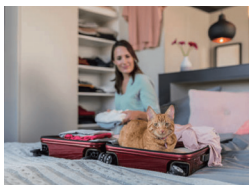
③ペット可のマンションに入居している場合、他の猫がノミを持ち込む

賃貸で猫を飼う場合は、ペット可のマンションに入居することがほとんどでしょう。しかしながら、マンションでは、猫ノミに寄生された猫が近くに住んでいる可能性があり、玄関やベランダ、部屋の隙間などを經由して猫ノミが侵入してくることも考えられます。室内飼いの猫であっても、このような感染経路があることは事前に知っておきましょう。

④他の猫と接触した場合に、ノミがうつることがある

最近では、ペットを連れていけるカフェなども増えていますが、他の猫と接触した場合には、宿主となっている猫を媒介にして、猫ノミに感染することもあります。他の猫と遊ばせてあげるのは素敵なことですが、猫ノミ感染の危険性があることは忘れず、帰宅後のケアを万全に行うようにしてください。

猫ノミは気温13度以上あれば繁殖可能、年間を通じて対策が必要



猫ノミは気温13度以上あれば、十分に繁殖することができる能力を持っています。そのため、猫ノミが一度でも室内飼いの猫がいる住居で繁殖した場合、ノミを完全に駆除するのが難しくなります。猫ノミの繁殖力は強力で、10匹の猫ノミが、わずか30日後には2,000匹の成虫、約9万個の卵、約10万匹以上の幼虫にまで増殖したという記録もあります。

猫ノミを室内に持ち込まないための予防や対策とは？



①帰宅したら猫と接触する前に、清潔な服装に着替える

帰宅したらまず、清潔な衣服に着替えてから、猫と接するようにしましょう。また、外出後の衣服は室内に長時間放置せず、早めの洗濯・手洗いを忘れずに行うようにしてください。

②玄関などの感染しやすい場所に猫が入らないようにする

玄関などは、靴に付着した猫ノミの成虫・幼虫・卵が入り込みやすい場所です。そのため、猫が頻繁に玄関付近を出入りしないように工夫することも大切でしょう。市販のノミ除去剤のスプレーを常備し、外出後の靴などにふりかけるようにすると予防になります。

③こまめな清掃を行い、市販の駆除薬などを使用する

猫ノミは部屋の隅や家具類の隙間、畳、ベッド、ソファーなどを好みます。日常的にこまめな清掃を行い、清潔な環境を保つことがノミの予防・対策になります。また、市販のノミダニ駆除薬(くん煙剤、くん蒸剤など)を使用するのも良いでしょう。

④シャンプーをしてお風呂に入れ、被毛の手入れを入念に行う

猫ノミは猫の体表に寄生するため、お風呂でシャンプーをし、ブラッシングを入念に行うことも必要です。猫ノミは水に弱いので、シャンプーを行うことで付着している成虫を駆除することができます。

ノミ・マダニに関する最新情報をチェック!

 LINE 公式サイト LINE@友達募集中 →

